

平成24年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
1	【自由提案部門】 楽しい健康体操-Ⅲ 事業	特定非営利活動法 人人材パワーアッ プセンター	健康推進課	【会長】 場が15ヶ所も増えたり、町会を巻き込んだ地域への拡がりが見られる点は評価できる。一定のネットワークが出来つつある点も興味深い。身近な場所での機会提供ということを考えていくには、地域への働きかけ、行政の事業との融合が必要なので、その点は話し合っていくことを勧める。 【委員】 高齢者のデータ推計による事業設計、推進チームによる計画的な事業運営で、地域に密着した事業が実現しており、行政サービスの補完が成立している。他方、事業の担い手の高齢化という課題に直面しているので、これを克服しながら、この事業により高齢者の健康寿命を伸ばす身近な場を今後とも増やしていくことを期待する。 【委員】 保健福祉課関連の「健康体操」を解消してということで、従来の参加者の認識・了解はスムーズにいったのでしょうか。協働事業として新しい発想での体操の場として受け入れられているのだと思います。指導員の養成もでき、今後の広がりが期待できる。 【委員】 自立後の場所の確保を心配してましたが、事業内容が良いだけに、行政で支援してあげられないものか。 【委員】 確実に成果を伸ばしていることは高い評価をしています。継続するための問題点に注意して欲しい。 【委員】 どこでも、誰でも、いつでもでき、平均70歳以上の参加者が多いということは大変すばらしい事業であると思います。終了証を渡していることも、市民の方の励みにもなると思いますので、市民の健康づくりにこれからも寄与する事業としてぜひ継続を期待するものです。

平成24年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
2	【自由提案部門】 世代間交流の場・トキ塾事業	常盤平地域活性隊	常盤平支所	【会長】 参加、学習型の地域交流が進められており、とても高く評価できる。支所での既存の取り組みとどう関連させられるか、異世代間交流へと広げる契機を作っていけるか、大きな課題があると思われる。子どもたちも含め、他の地域の人たちも参加していけるような入口を開いていくといいのではないかな。 【委員】 諸々の制約条件の下、いろいろな手段を講じながら世代間の交流を促す努力を感じさせる事業である。世代間交流の難しさや関連する課題をよく認識しているので、それを解決する方策を用意し、活動が定着していくことを期待する。そのことに関連し、常盤平支所は地域課題の解決のためにこの団体を含めて他のいろいろな団体と協働し、常盤平の地域課題の解決へ集中的に取り組むモデルを検討して貰いたい。 【委員】 常盤平という一地域を活性化、地域住民の交流をめざすこの活動が、各地に波及することも期待できる。 【委員】 是非支所からも積極的に色々な仕組みや仕掛けを期待したい。 【委員】 塾、講座内容がバラエティーに富んでいて主催者の工夫がうかがえる。 【委員】 若年層に対してのアプローチを考察し、幅広い方々に参加頂ければ素晴らしい事業となるでしょう。青少年育成等の他団体との連携など、取り組むことはありそうですので頑張ってください。 【委員】 60歳以上の参加者が大半ということで、今後は若い層や家族での参加が命題であると思います。誰でもが入りやすい企画と宣伝で盛り上がることを期待します。

平成24年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
3	【自由提案部門】 パパ手帳を使った 男性への育児支援 事業	特定非営利活動法 人子育て支援ぽこ ら	男女共同参画課	【会長】 子育てにおいてパパに期待されていることが分かるような工夫がなされており、その裾野が開かれつつあると思う。今後は、ここにパパたちの声を多角的に拾い上げ、どのような子育て参加があり得るのか、内容を充実させていってもらいたい。また、パパが置かれている環境（職場）への働きかけ、パパも同行する病院への働きかけなど、さらに取り組みを浸透させていく必要があるのではないかな。 【委員】 2回のイクメン講座を開催し、子育てパパの巻き込みに努力しているのは判るが、その取組におけるパパ手帳の役割や効用が伝わってこない。また、女性センターがこの団体と協働したことで女性センター単独の事業と比べてどのような成果を得たのかも伝わってこない。子育てパパ支援にかかる問題の立て方や事業設計を抜本的に見直す必要を感じる。 【委員】 女性センター（男女共同参画課）との協働事業から、様々な行政機関との連携がとれたとのこと、大きな成果だと思う。 【委員】 パパに「持ってもらおう手帳」又は「持たせる手帳」のイメージがある。パパに「持ってもらいたい手帳」パパが「持ちたい手帳」ではない気がします。パパ同士の係わりは、パパ同士に仕掛けてもらってはいかがでしょうか。 【委員】 印刷した手帳は合計3000部、配布したのは1500部で半分残っているので、事業期間内に配布しきれる部数にした方が良かったのではないかな。 【委員】 男性への育児支援事業として、パパ手帳が有効に活用された結果、参加男性の育児の支援に繋がったのかが見えにくかったのが残念である。育児支援と育児推進の両面を考えての活動であると感じるが手帳が有効に活用され、支援に繋がっていることに期待したい。 【委員】 1歳までのパパ手帳記録が2歳半まで記載できるようになったことは大変よいと思います。 このようなグッズは問題意識の掘り起こしや参加者の関心を大変高めると思いますので、今後も継続して事業を展開されますことを期待します。

平成24年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
4	【自由提案部門】 ゲット ユア ド リーム事業	特定非営利活動法 人子どもの環境を 守る会 J ワール ド	子育て支援課	【会長】 学校との連携により積極化し、好意的な反応が広がっていることは素晴らしいことだと思う。子育て支援課とも目標を共有しながら段階的な歩みを進めることができている。現場や相手方から出てくる声をしっかり受け止め、双方向的に取り組む内容が進展、深化していくことを期待したいと思う。 【委員】 子育て支援課と問題意識を共有し、その着地点とそれに至るまでの道筋を設計している。事業の途中で「大人目線」に陥っていたことに気づき、当事者である「中高校生目線」に立ち返るなど、事業のPDCAマネジメントサイクルが働いていると感じる。協働事業の成果を高めるうえでPDCAマネジメントサイクルは基本なので、その経験知を団体は他のNPOへ技術移転する役割を担って貰いたいし、子育て支援課は協働事業の進め方として庁内へ普及させて欲しい。 【委員】 中高校生と大人との交流の場は誠に少ない状況で、この事業が広がり、中高校生と大人集団との交流発展につながっていくことを期待する。 【委員】 事業モデル化を期待します（他の学校が独自で開催ができるように）。 【委員】 担当課との協働で学校と連携できるようになったとのことで、今後も充実した事業内容で継続していただきたい。 【委員】 目的・内容共に充実した事業である。事業継続への取り組みもしっかりされている事が高く評価できる。 【委員】 東部地区での実績をもとに、今後馬橋地区へも拡大していくとのこと。子どもに関して市民の関心を高めてほしいと思います。また子どもたちが求めていることをより具現化するような方策や対策を今後検討して、よりよい事業展開が図れることを期待します。

平成24年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
5	【自由提案部門】 昔のあそびとわらべうたⅡ事業	昔のあそびと遊ぼう会	六実支所	【会長】 参加者数を着実に伸ばしており、地域への浸透の状況がうかがわれる。他の団体との連携も進んでいるようで期待が持てる。支所の既存事業との関連も模索できると、さらなる浸透を図っていくこともできるのではないかな。また、他地域との連携も工夫されていくことを期待したい。 【委員】 事業内容そのものは地域の記憶や伝統を次世代へ伝える点において価値がある。しかし、六実支所がこれを協働事業とする価値が伝わってこない。この取組みを支援するだけならば協働する意味はない。六実支所の捉えている地域課題が何であり、それをどう解決するのか、その観点を交えて団体と一緒に協働事業を設計するのが望ましい。 【委員】 協働事業で「支所」を設定した事が、市民に身近な存在である行政機関に対して評価が上がるかどうか。支所との連携として「支所」の存在価値が期待される。 【委員】 もう一步深い多世代交流を期待します。 【委員】 素晴らしい活動。できれば他の地域にも広がれば良いのですが。 【委員】 目標以上の成果が得られ、地域から求められる事業と評価してよいと思います。今後行政（支所）とどのような関係が保てるのかが気になります。場所の提供と広報以外での繋がりが出来る事を望みます。 【委員】 様々なイベントを通じ、世代間の交流を行うことは、まさに地元の地域ならではの特色だと思います。今後も地域の活性化のために継続して事業を展開されますことを期待します。

平成24年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団 体 名	事業担当課	評価コメント
6	【自由提案部門】 家庭用廃食油の回収による地域活性化事業	NPO法人松戸エコマネー「アウル」の会	環境政策課 商工振興課	【会長】 廃油の回収とアウル通貨の活用というシステムが段階的に浸透しつつあると思われる。選択の1つは地元商店からの協力をどのように得られるかにあると思われるが、そのためには商店の側にどんなメリットがあるかをもっと理解してもらえるように工夫していくことが必要と思われる。商店の地域貢献、地域からの信頼獲得など様々な観点を可視化していくことが必要ではないか。 【委員】 身近な環境問題と地域通貨を連結させる努力は認めるが、成果を見る限り、協働事業の価値が伝わってこない。廃食用油回収によるアウル券の配布枚数1,369枚(今年1月末現在)に対する利用枚数は312枚(同時点)で利用率23%に過ぎない。団体が注力している廃食用油回収がアウル券の流通に結び付いておらず、事業設計に問題があると思う。行政の関わり方を含めて抜本的な見直しが望ましい。 【委員】 「広報まつど」、一般新聞等にも紹介され、良い方向に行くとは思いますが、協賛店がなかなか増えず(現在42か所)、アウル券を有効に使ってもらえない状況である。油回収拠点でも「記事になると油持参加が増える」と言っており、さらにPR活動するつもり、とのことである。市の車にBDFが使われていることがさらにPRされ、「資源を無駄にしない」ことと「地域活性化」意識を広めてほしい。今後、商工会議所等とも連携をすすめる必要がある。 【委員】 成果や効果が現しづらい事業だと思います。ですので、もう少し分かりやすくして賛同者を増やしていくことができると良いと思います。 【委員】 廃油回収と地域通貨で地元商店の活性 という二つの難しいテーマが上手くいくか、あと一年後の様子を見守りたい。 【委員】 回収量を増やす事や回収拠点を増やす事、アウル券の使用量を増やす事など、まだまだ問題は山積であると思います。地域活性化事業としての成果がどうなのか検討して頂き、既存活動に囚われることなく新しい切り口での取組を期待します。 【委員】 市の清掃車1台はこの家庭用廃食油で走行している、とのことであり、市民の関心を高めていくことが、この事業のキーになると考えます。 様々なイベントや宣伝で住民の関心を高めていただきたい。 この事業が社会貢献をしていることは大変素晴らしいことであり、今後も活躍されますことを期待しています。